

氷体の発見者、 福井さん。 立山のさらなる 研究に挑む。



Contents

- 特集①「食育」のすすめ
- 特集② 選ばれる観光地を目指して
- 県政Q&A
- 県政の動き
- 県内おでかけ情報
- 健康レシピ「ウドのタラマヨサラダ」
- 県広報のお知らせ
- 県政クイズ

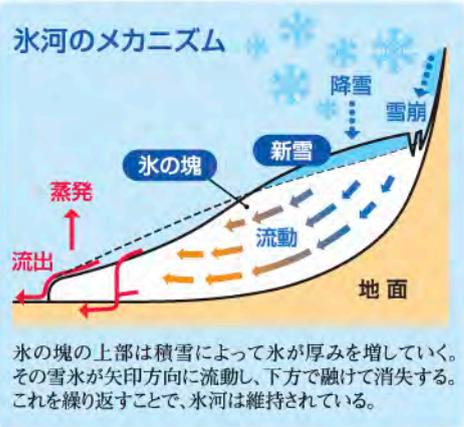
人々の心を魅了してやまない富山県を代表する観光地、北アルプス立山連峰。この立山連峰に新たな魅力が加わるかもしれません。それは、「氷河」の存在です。そもそも日本には「氷河」は存在しないといわれてきました。しかし、ここ立山連峰で、「氷河」の可能性を示す氷体(氷の塊)が発見されました。その発見者が、立山カルデラ砂防博物館の学芸員、福井幸太郎さん(富山市)です。

大阪府出身の福井さんは、大学で地形学を専攻し、博士課程を修了。国立極地研究所での研究員を経て、2006年11月から南極観測隊員として氷床コア(氷のサンプル)の採取に携わりました。その後、2008年3月に南極から帰還した福井さんは、富山に定住することを決意します。大学院時代、立山の永久凍土を研究していたという縁があり、福井さんも立山の魅力にとりつかれた一人だったのです。

学芸員として勤務するようになってからも、福井さんの立山に関する研究は続きました。そして、2009年9月、立山



氷の厚さを測るアイスレーダーを運んで、御前沢雪渓へ向かう。



連峰の主峰・雄山の御前沢雪渓で、長さ700〜800m、幅200m、厚さ約30mの日本では最大級の氷体を発見。この氷体は「氷河」の可能性が高いとされていますが、「氷河」であることを証明するには、流動しているか否かを調べる必要があります。そこで、今年の9月初旬から2カ月間にわたって流動観測を行う予定です。この氷体が「氷河」だと認められれば、現存する国内唯一の「氷河」を発見したことになります。

悠久の浪漫あふれる立山連峰。「剣岳の小窓雪渓や三ノ窓雪渓にも、氷河の可能性を示す氷の塊があるので、今後の調査対象にしたい」と熱く語る福井さん。飽くなき挑戦は、これからも続きます。

Q. 立山の魅力をより多くの人に満喫してもらうとともに、その豊かな自然環境を保護していくことが大切だと思いますが、県ではどのような取り組みを行っていますか。

A. 県では、立山の魅力を満喫していただくために、立山黒部アルペンルート沿線の弥陀ヶ原、室堂、黒部湖などの主要拠点を中心に、散策歩道の整備や自然解説員の配置を進めています。また、立山の自然や文化に身近に触れ親しむ場として、立山自然保護センター、立山博物館などの施設を整備し、展示内容等の充実に努めています。同時に、立山の貴重な自然環境を守るために、

- ① ハイブリッドバスの導入やトロッコバス化による排気ガスの抑制
- ② アルペンルート沿線施設のゴミ減量化の取組みや生ゴミの下界への搬出処理
- ③ 保護柵の設置等によるライチョウの保護
- ④ 植生復元や外来植物の除去

などの環境保全対策を関係機関と連携しながら行っています。

今後とも、本県を代表する観光地として、立山がより一層魅力あるものとなるよう努めるとともに、豊かな自然環境を後世に守り伝えるために、引き続き環境保全対策に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



県政に関する
ご質問に
知事が
答えます!!

県政Q&A



皆様のご意見をお待ちしています。「元気とやま目安箱(知事への意見・提言)」係まで

◎はがき・手紙 〒930-8501 県庁広報課 ◎FAX 076-444-3478 ◎インターネット <http://www.pref.toyama.jp/tiji-form.html>

この件のお問い合わせは

県自然保護課
TEL.076-444-3396